

団結 思い出最高クラス

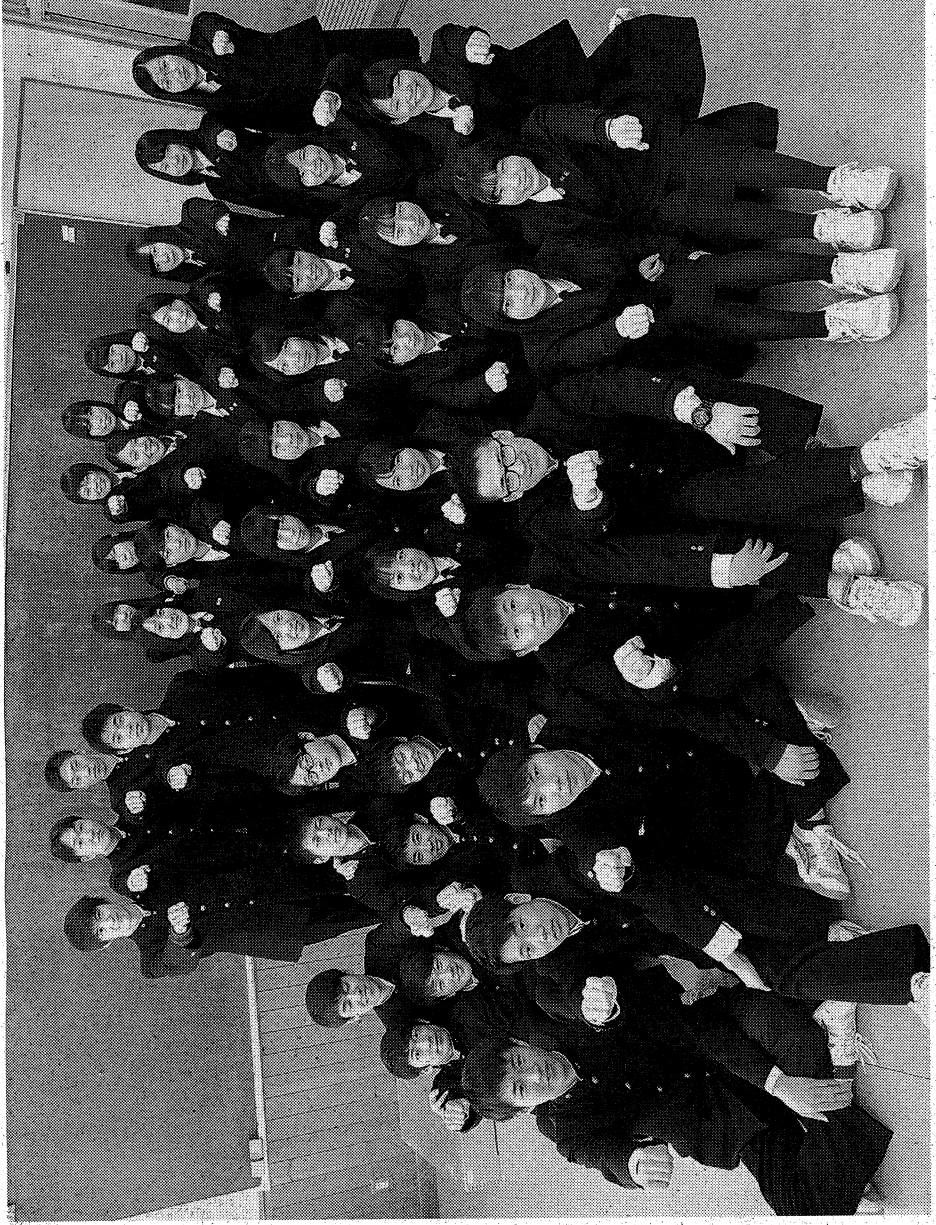
花巻市石鳥谷町の花北青雲高(佐藤隆朗校長、生徒491人)3年C組42人は、1年間全員で無欠席を達成した。同校は1日に卒業式が行われ、生徒たちはクラスの解散を惜しみながらも、仲間との日々を胸にそれぞれの世界に向かって羽ばたいた。

花北青雲高3年C組

全員無欠席は偶然ではない。高校生活最後の年度が始まった昨年4月上旬、部活動の合宿に使われる書雲会館に「クラスで泊まりたい」という声が上がった。高橋蓮斗さんいわく「情緒に頑張ってくれるお父さんみたいな先生」という担任の伊藤高頼教諭(47)に相談すると「何かを頑張ったら、いいんじゃないか」と条件の提示を受けた。2年生から持ち上りの42人は「全員で1年間無欠席」を目標に定めた。体育祭はプロ綱引きチームの動画を参考に、綱を引く姿勢から練習するなど結束。2年時は最下位に近かったが、3年時はクラス総合優勝を勝ち取った。休まないための努力も怠らず、佐藤夏海さんは「健康になると聞いたから」と

全員で1年間無欠席

「みんなで泊まり会がしたい」と42人全員で1年間無欠席を達成した花北青雲高3年C組。毎日人知れず「舌を出す」あいつべ体操」に取り組んだ。「多少熱があってもとにかく一度は登校する」と各自が腹を決めた。2月23、24日に念願の泊まり会を開催。映画鑑賞したり、2年時の文化祭で開いた「ハードロック居湯カフェ」で余った入浴剤を入れて風呂に入るなど楽しい思い出をつくれた。小中高12年間無欠席の大坂悠斗さんは「行きたくないクラスだったらできなかつた。みんなが自分を呼び入れてくれているという実感があつたからこそできた」と言葉に熱がこもり、同じく12年間無欠席の佐藤美穂さんは「人生で一番良い学級だった。卒業したくない」と解散を惜しむ。伊藤教諭は「素直で気持ちのいい子どもたち。自分を信じてこれからも頑張つて」と力強く背中を押す。



この記事・写真は
岩手日報社の許諾を得て転載しています。